

①男もすなる日記といふものを、女もしてみむとて、するなり。

②それの年の十一月の二十日余り 一日の日の戌の時に、門出す。

③そのよし、いささかにものに書きつく。

④ある人、県の四年五年果てて、例のことどもみなし終へて、解由など取りて、住む館より出でて、船に乗るべき所へわたる。

⑤かれこれ、知る知らぬ、送りす。

⑥年ごろよくくらべつる人々なむ、別れがたく思ひて、

日しきりに、とかくしつつ、ののしるうちに、夜更けぬ。

⑦二十二日に、和泉の国までと、平らかに願立つ。

⑧藤原のときざね、船路なれど、むまのはなむけす。

⑨上・中・下、酔ひ飽きて、いとあやしく、潮海のほとりにて、  
あざれ合へり。

⑩二十三日。八木のやすのりといふ人あり。

⑪この人、国に必ずしも言ひ使ふ者にもあらざなり。

⑫これぞ、たたはしきやうにて、むまのはなむけしたる。

⑬守柄にやらむ、国人の心の常として、「今は。」とて

見えざなるを、心ある者は、恥ぢずになむ来ける。

⑭これは、ものによりてほむるにしもあらず。

⑮二十四日。講師、むまのはなむけしに出でませり。

⑯ありとある上・下、童まで酔ひしれて、一文字をだに知ら  
ぬ者、

しが足は十文字に踏みてぞ遊ぶ。